

静岡版「空き家プロジェクト」 立ち上げを

建築家、ArchitectS Office 代表

石川雅英さん

Masahide Ishikawa



経歴

静岡市駿河区生まれ。県立静岡高校卒業、広島大学工学部卒業、同大学院博士課程前期修了。1985年、清水建設株式会社入社、2005年、ArchitectS Office設立、代表に就任。55歳。

飛騨高山の老舗和風旅館「本陣平野屋花兆庵」など多くのホテル、旅館の設計を手掛ける。1990年、東京建築賞優秀賞、94年、日本建築学会新人賞。「月刊ホテル旅館」(柴田書店)にコラムを連載中。今年12月にエッセイ「旧帝国ホテルのクリームソーダ」(美術出版)を出版。ホテル・旅館に関する論文等多数。

<http://rvstone.com/>

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

お客様の視点で考える

東京・日本橋にある3階建てのしょう酒な建物。倉庫だった建物をリニューアル、仕事場は3階で、1階にカフェ、2階は「若いアーティストを応援しようと画廊にしました」。20年間勤めた大手ゼネコンを退職し2005年に独立。31歳の時に設計を任せられたモスバーガーのゲストハウス兼研修所が建築業界の優秀賞を受賞、一躍脚光を浴びた。様々な分野を手掛け、とりわけ

ホテル、旅館の設計・デザイン、伝統的な建物の保存・再生では、定評がある。

今年3月に開業した三井不動産ご自慢のホテル「三井ガーデンホテル京都新町別邸」(京都市)の基本設計とデザインを担当。「明治建築の美、京都の古い街並みや伝統を継承し、どう保存・再生させるか神経を使いました」。

「一口に保存・再生といっても、その建物とか、まちが培ってきた歴史みたいなものがやっぱりありますから。引き継ぐべき歴

公的機関が窓口に

史の価値判断、見極めが重要になります」。日頃から「お客様の視点で考えること」を心がけているという石川さん。「ホテルや旅館には例えば、癒しやゆとり、それと日常的だけれどちょっと非日常的な艶っぽさとか、色気が求められるのですね」。

郷里・静岡への期待は「静岡には魚をはじめ、いい素材があるので外へ出て勝負した方がいい。東京と言わず、世界にもっと目を向けてほしいですね。じり貧のまちなならないために。かつては全国に誇れるモデル都市だったのですからね」。

建築家の視点から静岡市の活性化策として空き家・空きビルの有効活用を提案する。「多くの空き家をそのまましておくのはもったいない。『空き家プロジェクト』を立ち上げ、例えば、民家だったらシェアハウスにして若いアーティストや学生を住ませ、近くの空きビルを工房にするとか検討したらどうでしょう。市役所など公的機関が窓口になれば、提供側も利用側も安心できるのではないかと話す。

今夏の高校野球静岡地区予選決勝戦では、「すごく忙しい時期でしたが、日帰りで静岡の応援に行ってきました。甲子園出場をかけた母校の闘いとなると石川さんも血が騒ぐようだ。

(文：長田義明、写真：ArchitectS Office)